

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
日本国憲法	保育・幼児教育学科／1年	2026／後期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位（30時間）	必須		楳本 あゆみ
授 業 の 概 要			
歴史的な背景から日本国憲法の成り立ちを理解し、国民の権利に対する知識を深める。			
授業終了時の到達目標			
日本国民としての権利・義務に関する知識を身に着け、諸問題に対する自己の意見を持てるレベルに達する。			
実務経験有無	実務経験内容		
時間外に必要な学修			
授業で行った箇所の復習、次回の予習			
回	テ ー マ	内 容	
1～2	現代の憲法	・ 憲法とは何か ・ 日本国憲法の制定	
3	国民主権と象徴天皇	・ 国民主権 ・ 象徴天皇	
4	平和主義	・ 平和主義の現実 ・ 平和主義と国際貢献 ・ 憲法9条と集団的自衛権	
5～8	基本的人権	・ 基本的人権とは何か・包括的基本権・精神的自由 ・ 経済的自由権・社会権・人身の自由と刑事手続きの保障 ・ 国務請求権・参政権・国民の義務	
9～12	統治機構	・ 統治機構の原理・国会・内閣・裁判所・地方自治	
13	憲法の保障と改正	・ 憲法の保障・憲法改正	
14	日本国憲法	・ 復習	
15	日本国憲法	・ 期末試験	
教科書・教材		評価基準	評価率
日本国憲法		確認テスト 期末試験	40.0% 60.0%
			その他

作成者:和田 登美子

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
情報処理入門Ⅰ	保育・幼児教育学科／1年	2026／通年	演習
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位（32時間）	必須		和田 登美子
授 業 の 概 要			
パソコンの基本操作と設定をマスターする			
授業終了時の到達目標			
パーソナルコンピュータの基本的な操作方法からネットワークの利用等をマスターし、パソコンを仕事に活用させる能力を身に付ける			
実務経験有無	実務経験内容		
時間外に必要な学修			
次回の授業内容を踏まえて、テキストを用いて予習する。			
回	テ ー マ	内 容	
1～2	情報処理の基礎 コンピュータシステム	情報の意味、データの表現方法、コンピュータの五大装置	
3	情報セキュリティ	情報セキュリティ対策、情報モラル	
4	クラウドシステム 情報伝達	情報漏洩 守秘義務 情報の選択	
5	クラウドシステム	クラウドサービス、コミュニケーション手段	
6～8	ワード	ワードの使い方について ワードの基本操作 文書作成	
9～12	エクセル	エクセルの使い方について エクセルの基本操作 表・グラフ作成	
13～16	パワーポイント	パワーポイントの使い方について パワーポイントの基本操作 スライド作成	
教科書・教材		評価基準	評価率
「情報処理入門」近畿大学九州短期大学通信教育部		課題・レポート スクリング	50.0% 50.0%
			その他

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
英会話 I		保育・幼児教育学科／1年	2026／前期	講義
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位（32時間）		必須		西川 敏明
授 業 の 概 要				
英語と日本語の発声、発音の相違点を理解し、英語の基本的な発音(母音と子音)を習得させる。 日常英会話の基本文や保育の際の英会話文を理解し習得させる。 西洋諸国の多様な文化、風習、マナーの相違等への理解を深める。 保育活動に有効な英語の歌やゲーム、遊戯を取り入れて実践させる。				
授業終了時の到達目標				
基本的な発音記号を読み、正確に発音する。 基本会話文を習得するとともに、外国への関心を高め、理解を深める。 外国人の園児や父兄とコミュニケーションが図れるよう、保育士業務に必要な英会話や英単語を習得する。 保育活動に有効な英語の歌やゲーム、遊戯などを実践しながら習得する。				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
次回の授業内容を踏まえて、テキストを用いて予習する。				
回	テ ー マ		内 容	
1	pre-unit-Please Speak More Slowly		英語で簡単な挨拶。英語で話しかけられた時の対処方法。	
2	Unit1- Hi, I'm Yuri Tanaka		人に何かを頼む表現。	
3	Unit1-Hi, I'm Yuri Tanaka		英語で自己紹介の5つのポイント。	
4	Unit2-Where Is the Multi-purpose Room?		位置を伝える表現。（園内の教室などの案内）	
5	Unit2-Where Is the Multi-purpose Room?		位置を伝える表現。（保育園周辺の道案内）	
6	Unit3-Good Morning.How are you Today?		今日の調子を聞く・答える表現	
7	Unit3-Good Morning.How are you Today?		英語の数字の発音や聞き取り	
8	リスニング 復習 期末テスト		聞き取りにくいリスニングの復習。 リスニングテスト&筆記テスト	
9～ 12	テキスト：Unit4～5 英語でアクティビティ		好きなもの／嫌いなものを聞くWhatの表現 工作やお絵かきで使う道具を英語で？ 場所を表す表現There's/There're…とat, in, onの使い方 園内や教室内の物を英語で？ アクティビティ：英語の歌、Fruits basket, Bingo, What time is it, Mr.Wolf? など。	
13～ 16	テキスト：Unit6 英語でアクティビティ		人に何かするよう／何かしないように言う表現（命令文） 遊具の英語名・物語「桃太郎」英語本 アクティビティ：グループ発表の準備とグループ発表	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
Happy English for Childcare		スクーリング 確認テスト 課題・レポート	40.0% 20.0% 20.0%	

回	テ	ー	マ	内	容
				期末試験	20.0%

作成者:加藤 達也

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態	
生涯スポーツ	保育・幼児教育学科／1年	2026／前期	実習	
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員	
2単位（30時間）	必須		加藤 達也	
授 業 の 概 要				
○スポーツに親しみながら、自分自身の体力維持・向上を図り、身体を動かす重要性を学ぶ。 ○テーマを決めて、それに沿った遊びを考え、そこから得られる効果などを学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
○自身の体力維持、向上。スポーツに参加して他者と交流する楽しさや、偶然の面白さ、自己を表現する喜びといった 生涯に渡ってスポーツに親しんでいく姿勢を身に付ける。 ○目的をもった遊びを考え、提供できる力を向上させる。				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
これまでの授業内容を復習しておく。				
回	テ ー マ	内 容		
1～10	体力の維持、向上	授業で行うスポーツに取り組む		
11～15	スポーツに親しむ	授業で行うスポーツに取り組む		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		出席率 実習・実技評価	20.0% 80.0%	

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
健康科学	保育・幼児教育学科／1年	2026／後期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位（16時間）	必須		加藤 達也
授 業 の 概 要			
スポーツの概念を理解し、現代社会におけるその役割や現状を学ぶ。 健康の概念を理解し、現代社会における現状や問題を知る。その上でどのようなことに取り組む必要があるのか学ぶ。			
授業終了時の到達目標			
スポーツや健康とは何かを理解し、生活やこどもへの指導に役立てることが出来る。			
実務経験有無	実務経験内容		
時間外に必要な学修			
自己学習に努める			
回	テ ー マ	内 容	
1	スポーツの概念	スポーツ概念の広がり スポーツの本質的特性	
2	社会生活の変化とスポーツ	余暇社会とスポーツ 地域社会とスポーツ	
3～ 4	スポーツ参加の現状と課題	国民のレジャー活動とスポーツ 国民スポーツの諸相 国民スポーツ発展のために	
5	健康概念	健康という言葉 健康観の変遷 WHOの「健康」定義	
6～ 7	健康・体力と運動	現代社会の健康阻害要因 運動不足の実態 身体運動と健康 体力の概念 体力の構成要素	
8	生活におけるトレーニング	運動処方 トレーニングの科学的基礎	
教科書・教材		評価基準	評価率
生涯スポーツ・健康科学		期末試験	100.0%
			その他

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
社会人基礎講座	保育・幼児教育学科／1年	2026／後期	演習
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位（30時間）	必須		藤原 希
授 業 の 概 要			
就職活動も含めながら社会人になるための基礎力を身につける			
授業終了時の到達目標			
1) 3KAN教育（1. 自己効力感 2. 成長実感 3. 学び続ける習慣）により企業が求める人材を育成する 2) 基礎学力、専門知識を将来社会において発揮することができるための汎用的能力の育成 3) 目標を設定し管理することによって、自己成長を実感させ、将来設計ができるようになる			
実務経験有無	実務経験内容		
時間外に必要な学修			
回	テ ー マ	内 容	
1	動機づけ	・ 3KAN教育について ・ 動機づけ ・ 担当紹介 ・ 服装身嗜み ＊ 就職の手引き配布	
2	スケジュール管理/適性検査	・ 就職活動に向けた目標設定を行い、その目標を達成するための計画を立てる ・ 適性検査実施 ・ 就職の手引き説明 就職活動手順フローチャート P1 スケジュール確認 P5 身だしなみ確認	
3	文章術	・ 就職活動に備えたアウトプット中心の訓練 書く、話す、考える 文章の「型」を体得する ・ 論理的思考 ・ 考えを掘り下げる （「結論」→「根拠・事実」） ・ 文章の型の例「なたもだ」	
4	自己覚知①	就職の手引 P6～P9 自己分析	
5	自己覚知②	就職の手引 P10～P12 自己分析 過去～未来	
6	ロジカルシンキング	・ 「ものの見方で状況は良くもなり、悪くもなる。だったら、良くなる考え方をマスターして人生がもっと楽しくなる」ためのきっかけにする。	
7	自己PR作成	就職の手引 P13～P14 自己PR作成(400文字)	

回	テ　　マ	内　　　　　　容		
8	企業研究	就職の手引 P19～P24　就職相談室やインターネットを使って研究		
9	企業研究	就職の手引 P19～P24　就職相談室やインターネットを使って研究		
10	自己PR作成及び50問50答作成	就職の手引き (P53～P64) ・ 50問50答のポイントについて説明		
11	ホスピタリティマインド 社会人としての心得	・ ホスピタリティマインドとは ・ 日本のもてなし文化について		
12	履歴書	・ 履歴書の記入の仕方について		
13	50問50答、自己PR完成、 求職票 ①	・ 50問50答見直し ・ 自己PR完成		
14	50問50答、自己PR完成、 求職票 ②	・ 50問50答見直し ・ 自己PR完成		
15	振り返り	・ 目標管理シートに基づき 自己の就職活動への		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
就職の手引き 手帳		履歴書下書き提出 自己PR完成 志望動機完成 30問30頭完成	40.0% 20.0% 20.0% 20.0%	【準備学習】 前回の授業内容を しっかりと復習し ておく。

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
教育原理	保育・幼児教育学科／1年	2026／前期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位（30時間）	必須		藤原 希
授 業 の 概 要			
教育について基礎的知識を学ぶ			
授業終了時の到達目標			
教育の諸原理について理解する			
実務経験有無	実務経験内容		
時間外に必要な学修			
事前に出された課題について考えておく。			
回	テ ー マ	内 容	
1	教育とは	教育とは何か 日本の現状	
2	ルソー、ペスタロッチ、フレーベルの幼児教育思想についてそれぞれ簡潔にまとめ、近大幼児教育しそうについて考察しなさい。	各教育観の理解	
3	近代日本における幼児教育制度の成立と展開について、テキストの内容をふまえて整理しなさい。ただし、以下の法令は必ず取り上げ、その内容や変遷がわかるようにすること。 （法令：学制、小学校令、幼稚園令）	幼児教育制度の流れを知る	
4	2008年の中央教育審議会答申「新しい時代を切り拓く生涯学習のあり方についてまとめ、その内容について考察しなさい。	生涯学習という考え方について	
5	レポート課題について（幼児の理解のために必要なことはなにか）	幼児理解に必要なことについて	
6	レポート課題について②（幼児教育における事例）	幼稚園2歳児受入れについて	
7	日本における幼児教育制度の現状について、とくに2015年度以降の展開に焦点を当てて論述しなさい。	近年の幼児教育制度について	

回	テ ー マ	内 容		
8	乳幼児期の教育をめぐる国際的な動向についてテキストの内容をふまえ整理し、日本との比較を意識して考察しなさい。	乳幼児期教育について		
9	「教育評価」について、その基礎的な考え方を整理するとともに、今日の学校教育における子どもの学力評価の方法について説明しなさい。	評価の種類と方法 評価の意味		
10	幼児教育に関連して「連携」が要求される事例を一つ取り上げ、その具体的な取組と課題について論述しなさい。	様々な機関との連携		
11	まとめ	まとめ 次週以降に向けた振り返り		
12	練習問題①②	実際に問題を解く 要点の解説		
13	練習問題③④	実際に問題を解く 要点の解説		
14	練習問題⑤⑥	実際に問題を解く 要点の解説		
15	練習問題⑦	実際に問題を解く 要点の解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
保育のための教育原理		期末試験	100.0%	9月の科目終末試験にて評価。

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
社会福祉	保育・幼児教育学科／1年	2026／前期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位（30時間）	必須		阿部 善彦
授 業 の 概 要			
社会福祉の歴史から各分野の内容等を理解し社会福祉の全体像を学習する。 子ども、障がい者、高齢者、困窮者などの各分野のサービス内容や援助方法を学ぶ。			
授業終了時の到達目標			
社会福祉、社会保障の必要性を理解できる。 福祉施策の各論について、概要を説明することができる。			
実務経験有無	実務経験内容		
時間外に必要な学修			
次回授業内容のテキストを読み予習しておく。 3回程度の確認プリント課題。			
回	テ ー マ	内 容	
1	オリエンテーション 社会福祉とは	オリエンテーション 福祉の意味、用語の整理	
2	日本の社会福祉のあゆみ	古代から明治、戦後の社会福祉の変遷	
3	社会保障と社会保険	社会保障の体系 社会保険、公的扶助	
4	子ども福祉	法制度と現在の施策 児童虐待、子どもの貧困、ひとり親家庭	
5	障がい者福祉	法制度と障害者福祉サービス ノーマライゼーション	
6	高齢者福祉	高齢者を取り巻く日本の現状 高齢者への法制度、認知症施策等	
7	介護保険制度	介護保険制度、ケアマネジメント、チームアプローチ	
8	低所得者福祉福祉	貧困、生活保護制度 生活困窮者自立支援法	
9	地域福祉	地域共生社会の実現 地域福祉の担い手	
10	医療福祉	医療保険制度、医療機関 地域医療連携	
11	精神保健福祉	精神障害とは 精神保健福祉法と専門職	
12	社会福祉施設と専門職の役割	社会福祉施設の分類 専門職と資格制度	
13	社会福祉施設と専門職	社会福祉施設の分類 専門職と資格制度	
14	相談援助	相談援助の目的と対象 ケースワークの原則 相談援助プロセス	
15	まとめとテスト	まとめ 前期末試験	

回	テ　　マ	内　　　　容		
		評価基準	評価率	その他
	教科書・教材			
	コメディカルのための社会福祉概論 第5版	期末試験 確認プリント	70.0% 30.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
社会的養護Ⅰ		保育・幼児教育学科／1年	2026／後期	講義
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位（30時間）		必須		太田 敬志
授 業 の 概 要				
・社会的養護の概略について ・施設養護の種類と家庭養護（里親）の種類と役割について ・社会的養護の場で働く職員の種類と役割について				
授業終了時の到達目標				
・社会的養護の歴史的背景について学ぶとともに、児童虐待や発達障害など社会的に支援をしなければならない子どもの現状について理解する。 ・子どもたちへのケアと支援について理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		児童指導員の資格もち、児童養護の現場で30年以上勤務 この経験を活かし、より具体的授業を展開する		
時間外に必要な学修				
予習と復習をしっかりとこなう				
回	テ ー マ		内 容	
1	社会福祉とは何か		社会福祉とは何か ・社会福祉とは・社会的養護の歴史的背景	
2	社会的養護とは何か①		教科書12ページ～30ページ	
3	社会的養護とは何か②		・教科書12ページ～30ページ ・DVDで児童養護施設のドキュメントを観て感想を提出	
4	施設養護と家庭養護①		教科書34ページ～58ページ	
5	施設養護と家庭養護②		・教科書34ページ～58ページ ・DVDで乳児院の現状を学ぶ	
6	措置制度と措置施設		教科書62ページ～73ページ	
7	児童虐待		・児童虐待の現状・定義を学ぶ ・DVDを観ての感想を提出する	
8	利用・契約制度①		教科書80ページ～96ページ	
9	利用・契約制度②		・教科書80ページ～96ページ ・DVDで自立援助ホームのドキュメントを鑑賞する	
10	社会的養護の歴史		・教科書100ページ～114ページ ・DVDで石井十次の実践より学ぶ	
11	社会的養護に携わる職員とFSW		教科書118ページ～144ページ	
12	発達障がい		DVDで発達障がいについて学ぶ	
13	里親制度		教科書148ページ～160ページ ・徳島県で里親をしている人の体験を聴く	
14	児童養護施設の運営管理		教科書164ページ～175ページ	
15	自立とは		自立とは何か 5つの自立から支援について学ぶ	

回	テ　　マ	内　　　　容		
		評価基準	評価率	その他
	教科書・教材			
社会的養護Ⅰ	萌文書林 2018	期末試験	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
保育者論		保育・幼児教育学科／1年	2026／前期	講義
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位（30時間）		必須		藤原 希
授 業 の 概 要				
保育者の役割や倫理、求められる知識や技術、専門性等について学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
保育者の役割や倫理について知る。 保育において必要な知識や技術、専門性等について知る。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		保育所・幼稚園にて5年の経験あり。経験を活かして実践的な教育内容を図る。		
時間外に必要な学修				
・ 次回の授業内容を踏まえて、テキストを用いて予習, 今回の授業を踏まえて復習する。				
回	テ ー マ		内 容	
1	オリエンテーション 自分の理想とする保育者像について		授業内容や目的 自分の保育者像	
2	保育者の役割・職務内容		保育者の役割 職務内容	
3	保育者の倫理		専門的倫理 倫理綱領	
4	保育者の資格と責務		保育士の定義 幼稚園教諭の職務 保育教諭とは	
5	保育者の資質と能力		資質・能力とは	
6	養護および教育の一体化		「養護」と「教育」	
7	家庭との連携と保護者に対する支援		保護者支援	
8	計画に基づく保育の実践と省察・評価		計画・実践・省察・評価	
9	保育の質の向上		質の向上と評価	
10	職員間の連携・協働		体制の構築	
11	専門職間および専門機関との連携・協働 地域社会との連携・協働		連携と協働	
12	資質向上に関する組織的取組		資質向上	
13	保育者の専門性の向上とキャリア形成		保育者の専門性 キャリア形成	

回	テ ー マ	内 容		
14	保育におけるリーダーシップ	リーダーシップ		
15	まとめ	授業内容のまとめ 授業内容理解の把握		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
監修 公益財団法人 児童育成協会/編集 矢藤誠慈郎 天野珠路『保育者論』中央法規 自作プリント		期末試験 課題・レポート	50.0% 50.0%	・主体的に授業に参加する。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
教職概論		保育・幼児教育学科／1年	2026／後期	講義
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位（30時間）		必須		藤原 希
授 業 の 概 要				
教育とは何か、教師の立場とは何か、歴史や理論から学ぶ				
授業終了時の到達目標				
幼稚園教諭免許所持に値する教育の知識を身に付ける。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭、保育士、小学校教諭の資格をもち、保育所、附属幼稚園、公立幼稚園等の現場で5年の実務経験 一時保護所、子育て支援団体等でのボランティア経験、これらの経験を活かし、より実践的な授業展開を図る		
時間外に必要な学修				
前回学習したところを復習し、次回学習内容を予習しておく				
回	テ ー マ		内 容	
1	教育とは何か		教師の立場 教育の意味	
2	教育観		教育の考え方	
3	服務義務		教職員の服務義務	
4	現代社会の教師の役割		現代社会における教師が担う役割	
5	子どもの仲間集団の意義		仲間集団の形成と意義	
6～7	教師に求められるカウンセリングマインド		教師が身につけておくべきカウンセリングマインド	
8～9	教師の資質		身につけるべき資質	
10～11	幼稚園・保育所の一日の流れ		幼稚園・保育所の一日の流れについて、留意点や違いなどから学ぶ。	
12	教員の種類と連携		所属する教員の種類と連携について	
13～14	教職のもつ専門性		専門性 免許	
15	試験		試験	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
教職入門 未来の教師に向けて		確認テスト	20.0%	
		期末試験	80.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
保育の計画と評価		保育・幼児教育学科／1年	2026／後期	講義
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位（30時間）		必須		稲井 博実
授 業 の 概 要				
より良い保育のための計画の作成方法と評価を、保育の現場を想定して学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
教育や保育に、なぜ計画や評価が必要なのかを知る。 指導計画と記録の作成と評価、改善の基本を知り、実践できるようになる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭、保育士、小学校教諭の資格をもち、保育所、子ども園、公立幼稚園の現場で14年の実務経験の中で一人一人の子どもに寄り添い、個性や得意を伸ばす保育を展開してきた経験を活かし、より実践的な授業展開を図る。		
時間外に必要な学修				
次回の授業内容を踏まえて、テキストを用いて予習する。				
回	テ ー マ		内 容	
1	オリエンテーション 保育・教育の計画と評価の基本		授業内容を知る 計画と評価	
2	オリエンテーション 保育・教育の計画と評価の基本		計画と評価	
3	幼稚園・保育所・認定こども園における教育・保育の計画		現場における計画	
4	幼稚園・保育所・認定こども園における教育・保育の計画		現場における計画	
5	教育課程および全体的な計画等の編成の実際		教育課程と保育課程、全体的な計画	
6	教育課程および全体的な計画等の編成の実際		教育課程と保育課程、全体的な計画	
7	教育・保育の指導計画の作成にあたって		指導計画の作成について	
8	教育・保育の指導計画の作成にあたって		指導計画の作成について	
9	指導計画の作成		指導計画の作成	
10	指導計画の実際		計画を立てるときの基本とは	
11～12	教育・保育の記録と省察		記録と省察	
13～14	教育・保育の評価と改善		評価と改善	
15	まとめ			
教科書・教材			評価基準	評価率
萌文書林			課題・レポート	25.0%
				その他

回	テ ー マ	内 容		
	『保育の計画と評価 —豊富な例で1からわかる—』 宮川萬寿美 編著/野津直樹、内山絵美子	実習・実技評価	25.0%	
		期末試験	50.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
教育課程総論		保育・幼児教育学科／1年	2026／前期	講義
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位（30時間）		必須		大石 恵子
授 業 の 概 要				
1 教育課程、全体的な計画の意義				
2 幼稚園教育要領の概要				
授業終了時の到達目標				
1 教育課程、全体的な計画の意義や方向を理解する。				
2 幼稚園、保育所、認定こども園の相違を知る				
3 幼児教育の基本を理解する				
実務経験有無		実務経験内容		
有		徳島市立幼稚園で教員として従事する。		
時間外に必要な学修				
次回の授業内容を踏まえて、テキストを用いて予習する。				
回	テ ー マ		内 容	
1	幼児期に特質		乳幼児期の発達の特質 自我の目覚めと自発的な遊び	
2	幼児期の発達課題		教育課程と発達課題	
3	教育課程、全体的な計画の意義と方向		教育課程の概要 教育課程の要素	
4	「3つの資質・能力」 「幼児期に終わりまでに育ってほしい10の姿」		主体性・対話的で深い学び	
5	幼稚園・保育園・園庭こども園		法令に示される目的や目標 園の教育目標や保育理念	
6	教育課程・全体的な計画の基準		幼稚園・保育園・認定こども園の相違 教育保育の基準の流れ	
7	幼児教育課程の基本①		環境を通して行う保育	
8	幼児教育課程の基本②		幼児期にふさわしい生活の展開 遊びを通した総合的な指導 一人一人の発達の特性に応じた指導	
9	基礎となる幼児に姿		「遊び」の捉え方	
10	目的・目標		目的・目標・ねらいの意味	
11	ねらい・内容とその領域		5領域のねらいと内容	
12	教育課程・全体的な計画の編成		編成の意味と手段	
13	指導計画の作成		指導の意義 計画の作成の意義と手段	

回	テ ー マ	内 容		
14	教育課程・全体的な計画の評価	指導計画と指導の評価		
15	期末試験・振り返り	授業内容の確認 授業内容理解の確認		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
新しい幼児教育課程総論 幼稚園教育要領 プリント		確認テスト 課題・レポート 期末試験	20.0% 20.0% 60.0%	・主体的に授業に 参加する。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
造形表現（指導法）		保育・幼児教育学科／1年	2026／前期	演習
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位（32時間）		必須		三木 美雪
授 業 の 概 要				
○造形表現に必要とされる基礎的な理論や技術を学習する。 ○造形能力や感性を高め、表現活動を楽しむ。				
授業終了時の到達目標				
○絵画や工作における造形能力を育て、表現することができる。 ○学習した能力を幼児の造形活動の教育現場において発揮できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		特別支援教育に携わる。盲学校、知的障害、肢体不自由支援学校での34年の勤務経験を 生かして実践的な教育を図る		
時間外に必要な学修				
前回の授業内容を復習・完成しておく。				
回	テ ー マ		内 容	
1～ 2	季節を意識した造形活動①		季節（4月）の壁面、遊びを想定した製作 スタンプング、なぐりがき	
3～ 4	季節を意識した造形活動②		季節（5月）の壁面、遊びを想定した製作 立体表現（紙粘土、シュレッダー粘土）	
5～ 6	季節を意識した造形活動③		季節（6月）の壁面、遊びを想定した製作 にじみ絵、トイレットペーパー・おはながみを使って	
7～ 8	季節を意識した造形活動④		季節（7月）の壁面、遊びを想定した製作 魚つりゲーム、うちわかざり	
9～ 10	季節を意識した造形活動⑤		季節（秋、冬）の壁面、遊びを想定した製作 リース、新年の遊び	
11～ 12	造形遊びについて		身近なものを材料にした造形活動 空き箱、パッケージ袋を使って	
13～ 15	共同製作について		卒園に向けた壁面製作：大きな木 フロッタージュ、ドリッピング、スパッタリング	
16	自己評価・合評会		制作した作品を通した造形活動のねらいや気づきについ て、プレゼンテーション形式で発表する。	
教科書・教材			評価基準	評価率
造形表現（指導法） 岩男順 近畿大学九州短期大学			実習・実技評価 課題・レポート スクーリング	10.0% 40.0% 50.0%
				その他

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
幼児と言葉		保育・幼児教育学科／1年	2026／前期	講義
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位（16時間）		必須		藤原 希
授 業 の 概 要				
・新しい保育内容「領域言葉」の理解と実践 ・言葉の発達の理解や指導について正しい考え方、導き方の根拠 ・幼児の成長と発達のための適切な指導や援助				
授業終了時の到達目標				
・言葉の発達に関する理論の理解 ・言葉の発達を子どもを取り巻く環境からの影響との関連性の理解 ・保育者が実践すべき指導や援助の理解の手がかりを事例を通して、検討し、理解を深める				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭、保育士、小学校教諭の資格をもち、保育所、附属幼稚園、公立幼稚園等の現場で5年の実務経験 一時保護所、子育て支援団体等でのボランティア経験、これらの経験を活かし、より実践的な授業展開を図る		
時間外に必要な学修				
前回学んだことを復習しておく				
回	テ ー マ		内 容	
1	人の生活と言葉		言葉が人間生活の中で果たす役割・機能 乳幼児の言葉の特色	
2	乳幼児の言葉の発達と環境		子どもの発達と言葉の発達 言葉の発達と環境 言葉の問題の理解と園における対応	
3	領域「言葉」のねらいと内容		保育内容としての領域「言葉」について	
4	領域「言葉」の具体的な内容		聞く力、言葉による表現、考え想像する力、標識や文字、記号などへの興味や関心	
5	言葉かけを中心としての援助とかかわり		0. 1. 2. 3歳児と保育者のかかわり 4. 5歳児の活動と保育者のかかわり	
6～7	児童文化財を通しての援助とかかわり		お話と絵本 子どもの発達と絵本 紙芝居やパネルシアターの必要性 子どもにとってのおもちゃとは	
8	言葉の育ち（言語発達）をとらえる視点		考える力や言葉から広がるイメージの育ち 視点と保育評価の活かし方	
教科書・教材			評価基準	評価率
『言葉』近畿大学九州短期大学テキスト 『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 自作プリント			課題・レポート 期末試験	40.0% 60.0%
				その他

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
言葉（指導法）		保育・幼児教育学科／1年	2026／前期	演習
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位（16時間）		必須		藤原 希
授 業 の 概 要				
1. 保育所保育指針や幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育要領における言葉の領域の理解 ・ 幼児の成長と発達のための適切な指導や援助等、実践できる力の習得				
授業終了時の到達目標				
・ 言葉の矢鎖や言語習得の理論の理解 ・ 言葉の発達を、子どもを取り巻く環境からの影響との関連性の理解				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭、保育士、小学校教諭の資格をもち、保育所、附属幼稚園、公立幼稚園等の現場で5年の実務経験 一時保護所、子育て支援団体等でのボランティア経験、これらの経験を活かし、より実践的な授業展開を図る		
時間外に必要な学修				
テキストを読んでおく				
回	テ ー マ		内 容	
1	1. 保育の基本と領域「言葉」		領域「言葉」の「ねらい」と「内容」	
2	2. 乳幼児の言葉の発達		乳幼児の有能さと身体的関与 保育者との関係性と言葉の発達 コミュニケーションとしてのことば	
3	3. 領域「言葉」と保育方法		指導計画と領域「言葉」 言葉の育ちと環境構成 聞く、伝える、創造する体験	
4～5	4. 文化財との出会い		子どもの発達と絵本 共通の絵本を通した協同的思考	
6～7	5. 言葉と保育の実際		2者関係から3者関係以上の関係の中での言葉の発達 園生活が育む好奇心 ごっこ遊びと劇的表現	
8	7. 領域「言葉」の変遷		明治期～戦後、6領域から5領域時代	
教科書・教材			評価基準	評価率
・ 言葉（近畿大学九州短期大学テキスト） ・ 保育所保育指針 ・ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 ・ 自作プリント			スクーリング	100.0%
				その他

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
幼児と人間関係		保育・幼児教育学科／1年	2026／前期	講義
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位（16時間）		必須		大石 恵子
授 業 の 概 要				
1 保育内容の領域「人間関係」の意義学ぶ 2 人とのかかわりを通した幼児の育ちを理解する				
授業終了時の到達目標				
1 領域「人間関係」のねらいと内容を理解する 2 人と関わる中での幼児の育ちについて知識を深める 3 幼児を取り巻く社会的背景について知る 4 保育者の関わりについて考察する				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭として36年間実務経験あり 現場での幅広い経験を活かして学生に実践的に指導を行う		
時間外に必要な学修				
授業で行った箇所の復習をする				
回	テ ー マ		内 容	
1	領域「人間関係」の社会的背景		・ 家族・地域社会の変化 「個性」ち「人間関係」 5つの領域の中の「人間関係」	
2	子どもの発達と人間関係		・ 乳幼児期における人間関係の理解 ・ ライフスタイルから見た乳幼児期の「発達課題」 ・ 遊びの中での仲間関係の発達	
3	年齢による発達段階と保育者の関わり		・ 年齢による発達段階と人間関係の特徴	
4	領域「人間関係」のねらいと内容		・ 幼児期に育むべき資質と能力 ・ 領域「人間関係」の「ねらい及び内容」の考え方 ・ 領域「人間関係」の内容	
5	保育者が行う集団づくり		・ 「個」と「集団」の関係 ・ 保育者の目指方向 ・ 協同的な学びと遊び	
6	子どもとのかかわりを通した幼児理解と評価		・ 保育の質 ・ かかわりを通した幼児理解	
7	特別な支援を必要とする子どもの援助 子どもの家庭背景を踏まえた幼児教育・保育に視点		・ 障害のある子どもの理解 ・ 家庭に多様性と支援の重要性	
8	期末試験 幼児教育・保育における今日的課題		・ 小学校移行の捉え方 ・ 性をめぐる課題 ・ 多文化共生の課題	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
幼児と人間関係(同文書院)		課題・レポート	30.0%	
幼稚園教育要領		演習	20.0%	
自作プリント 他		期末試験	50.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
人間関係（指導法）		保育・幼児教育学科／1年	2026／前期	演習
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位（16時間）		必須		大石 恵子
授 業 の 概 要				
1 保育内容の領域「人間関係」の指導方法 2 保育者の具体的ななかかわりや援助の仕方				
授業終了時の到達目標				
1 領域「人間関係」のねらいと内容を理解する 2 人とのかかわる力を育てる保育者の役割と援助について理解する 3 支援を必要とする幼児に対して、かかわり方を工夫する				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭として36年間実務経験あり 現場での幅広い経験を活かして学生に実践的に指導を行う		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ		内 容	
1	領域「人間関係」人とのかかわる力の発達		・「人とのかかわる力」の捉え方 ・自我の芽生えと人とのかかわり	
2	幼児の発達と保育（3歳児）		・3歳児の発達の特性と保育者の姿勢	
3	協同性を育む遊び		・「協同性」の捉え方 ・発達段階に応じた協同的な遊び	
4	人と関わる力を育てる保育者の役割と援助		・事例を通した保育者の役割の考察	
5	人とのかかわりで気になる子どもへの援助		・事例から読み取る幼児理解	
6	幼児の発達と保育（4歳児・5歳児）		・4歳児の発達の特性と保育者の姿勢 ・5歳児の発達の特性と保育者の姿勢	
7	協同性を育む遊び（実技）		・実技を通して保育者の援助を考察	
8	まとめ（レポート）		・人とのかかわる力を育てる保育者の姿勢について記述	
教科書・教材			評価基準	評価率
保育内容「人間関係」（建帛社） DVD プリント			実習・実技評価 課題・レポート	50.0% 50.0%
				その他

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
幼児と環境	保育・幼児教育学科／1年	2026／後期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位（16時間）	必須		藤原 希
授 業 の 概 要			
五領域「環境」について、実際に触れることで、体験学習を行う。 環境を通しての学び、留意点を理解する。			
授業終了時の到達目標			
五領域「環境」の内容を理解し、実践する力が付く。			
実務経験有無	実務経験内容		
時間外に必要な学修			
事前に出された課題について考えておく。			
回	テ ー マ	内 容	
1	五領域「環境」とは	環境について	
2	自然に触れる 1	身近な自然とは	
3	自然に触れる 2	実際に触れ、発見や留意点を学ぶ	
4	自然に触れる 3	季節ごとに違う自然の移り変わりを活かす	
5～6	生き物について	現場での生き物との関わり方	
7	数量・図形への興味	どのように数的興味を持たせるか	
8	まとめ	授業のまとめ	
教科書・教材		評価基準	評価率
幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領		期末試験 課題・レポート	50.0% 50.0%
			その他

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
環境（指導法）		保育・幼児教育学科／1年	2026／前期	演習
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位（16時間）		必須		藤原 希
授 業 の 概 要				
五領域「環境」について、実際に触れることで、体験学習を行う。 環境を通しての学び、留意点を理解する。				
授業終了時の到達目標				
五領域「環境」の内容を理解し、実践する力が付く。				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ	内 容		
1～4	動物園でのふれあい	内容「身近な動植物」「生命の尊さ」 動物への興味を持たせる工夫		
5～8	植物などの自然環境	身近な植物に触れる 遊びへの工夫		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		課題・レポート	100.0%	【準備学習】 事前に出された課題について考えておく。

作成者:山根 公美子

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
音楽表現（指導法）	保育・幼児教育学科／1年	2026／前期	演習
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位（16時間）	必須		山根 公美子
授 業 の 概 要			
幼児の音楽指導において必要な技術を身につける			
授業終了時の到達目標			
豊かな表現法を身につけ、情操教育としての音楽指導ができる			
実務経験有無	実務経験内容		
有	エレクトーン演奏グレード5級、ヤマハ指導グレード5級の資格を持ち、エレクトーン教室等で31年の実務経験 この経験を活かし、学生の音楽表現力を高める実践的指導を展開する。		
時間外に必要な学修			
課題などの練習をおこなう。			
回	テ ー マ	内 容	
1～4	声楽曲、ピアノ演奏曲	レパートリー曲をアナリーゼし演奏する	
5～8	アンサンブル	よく知られた楽曲をアレンジする ⇒ 演奏する	
教科書・教材		評価基準	評価率
		スクーリング	100.0%
			その他

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
劇あそび（指導法）		保育・幼児教育学科／1年	2026／後期	演習
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位（16時間）		必須		山北 泰子
授 業 の 概 要				
表現の領域に関するねらいと内容の理解 リズムダンス、劇、表現の発表、鑑賞を中心とした活動の展開				
授業終了時の到達目標				
自分自身が表現することを通して、イメージと動きの関わりを体得 子どもの豊かな感性と表現する力を引き出すための指導法、援助の体得				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭、保育士の資格をもち、幼稚園等の現場で30年以上の実務経験 専門学校、大学での教員経験 これらの経験を活かし、より実践的な授業展開を図る		
時間外に必要な学修				
復習をしっかりとしておくこと。				
回	テ ー マ		内 容	
1	1. 領域「表現」の理解		領域「表現」のねらいと内容 表現の視点から劇遊びを考える	
2～3	3. 表現することを楽しむための援助		①ごっこ遊びから劇遊びへ ②役で表現 ③イメージや表現の場を共有して創る ④観られることへの意識 ⑤お互いが評価することの経験	
4	4. 表現遊び「子どもたちの劇あそび」		ことばや動きと劇の組み立てにむけての指導や援助 自由表現と模倣表現	
5～7	5. 演じる体験		年齢や発達段階を踏まえたねらいの設定	
8	6. 発表と観賞 7. 反省評価 まとめ		台本と教材研究、作成 まとめ	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
楽しい劇遊び 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 自作プリント		スクーリング	100.0%	課題・レポート40％ その他（実技・協調性）60％

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
健康（指導法）		保育・幼児教育学科／1年	2026／前期	演習
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位（16時間）		必須		山北 泰子
授 業 の 概 要				
「健康」の領域に関するねらいや内容を基本に、保育所や幼稚園また認定こども園において、子ども達の心とからだの健康を培っていくための環境や具体的援助。				
授業終了時の到達目標				
「健康」の領域のねらいや内容を理解し、「生きる力」の育成の意味を理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭、保育士の資格をもち、幼稚園等の現場で30年以上の実務経験 専門学校、大学での教員経験 これらの経験を活かし、より実践的な授業展開を図る		
時間外に必要な学修				
復習をしっかりとこなうこと。				
回	テ ー マ		内 容	
1	保育の基本と領域「健康」 ※幼稚園教育要領、保育所保育指針に示される「ねらい」と「内容」		健康の領域とは ねらい、内容とは 保育課程と教育課程と領域「健康」	
2	乳幼児の「健やかな心と身体」		乳幼児の発達の捉え方 乳幼児期の心の安定とは 基本的生活習慣の発達：基本的生活習慣とは 安全と保健指導：事故防止と安全対策	
3	食育に関する保育内容		食べる力と心の育ち 食育の環境とは 食事に関する保育内容と指導法	
4	健康と保育の実際		戸外活動の必要性 戸外遊びから育つ：事例からの考察	
5	健康や病気		予防と健康な生活 子どもの体力づくり 運動意欲を育む指導とは 運動遊びの指導計画の作成と指導法	
6～ 7	子どもを育むリズム遊び		リズムあそびから育つ：眠っている脳をおこす リズムあそびを体験：ピアノに合わせて体験 手の働きと脳の発達 手は脳の出張所：5本指の効用	
8	地域における子育て支援 まとめ		まとめ・課題	
教科書・教材			評価基準	評価率 その他

回	テ　　マ	内　　　　容		
	保育内容「健康」 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 「手のうごきと脳のはたらき」 自作プリント	スクーリング	100.0%	

作成者: 山根 公美子

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
幼児と音楽表現	保育・幼児教育学科／1年	2026／後期	演習
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位（16時間）	必須		山根 公美子
授 業 の 概 要			
幼児の音楽指導において必要な技術を身につける			
授業終了時の到達目標			
豊かな表現法を身につけ、情操教育としての音楽指導ができる こども園などで使われる楽器や子どもたちの能力の範囲内で、楽しいアレンジができること			
実務経験有無	実務経験内容		
有	エレクトーン演奏グレード5級、ヤマハ指導グレード5級の資格を持ち、エレクトーン教室等で31年の実務経験 この経験を活かし、学生の音楽表現力を高める実践的指導を展開する。		
時間外に必要な学修			
回	テ ー マ	内 容	
1～4	声楽曲、ピアノ演奏曲	レパートリー曲をアナリーゼし演奏する	
5～8	アンサンブル	よく知られた楽曲をアレンジする ⇒ 演奏する	
教科書・教材		評価基準	評価率
		声楽	30.0%
		ピアノ 1	35.0%
		ピアノ 2	35.0%
		その他	

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
幼児の心理学	保育・幼児教育学科／1年	2026／後期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位（16時間）	必須		渡部 幸奈
授 業 の 概 要			
本科目では、心理学の知見や理論をベースとして乳幼児の発達をとらえ、心理的特性を踏まえた保育の基礎となる考え方を学ぶ。 また、心理学的知見や科学的根拠に基づいた知識と技能を習得し、保育実践に生かすことをねらいとする。			
授業終了時の到達目標			
乳幼児の発達に関する心理学の基礎的知識を身に着け、心理学的知見に基づいた適切な支援の方法を習得する。			
実務経験有無	実務経験内容		
有	病院、学校、保健センター等で心理臨床業務に従事		
時間外に必要な学修			
前回の授業内容を復習しておくこと。			
回	テ ー マ	内 容	
1	発達を捉える視点	心理学的背景から子どもの発達を捉える視点について学ぶ	
2	遺伝と環境	発達の個人差とその規定要因について学ぶ	
3	愛着形成	保育における愛着の重要性について学ぶ	
4	遊びの発達	保育における遊びの意義について学ぶ	
5	気になる子どもとその支援	発達障害とその支援について学ぶ	
6	保育に生かす学習理論	心理学における「学習」と「行動」について学ぶ	
7	振り返り	これまでの振り返りとまとめを行い、試験に備える	
8	終末試験	試験を行う	
教科書・教材		評価基準	評価率
・教科書：実践に生かす保育の心理学 ・パワーポイントで講義を行う ・適宜、資料を配布する		期末試験	100.0%
			その他

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
保育原理	保育・幼児教育学科／1年	2026／後期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位（30時間）	必須		藤原 希
授 業 の 概 要			
保育の意義及び目的を理解し、保育者として子どもや保護者に関わるために必要となる基本的な視点や取り組みについて深める。 法令及び制度としての保育所の役割や目的の理解とともに、保育所保育指針において保育の基本を理解し、保育の目的や意義を考察する。 また、保育の思想や歴史を概観することから、現代の保育との関連性や現代社会の抱えている子どもの課題を考察する。			
授業終了時の到達目標			
保育の基本的内容を理解し、保育の本質を探究することができる。 また、様々な保育を取り巻く環境をふまえ、保育の現状と課題について本質を探究でき、自分なりの見解を持つことが出来る。			
実務経験有無	実務経験内容		
有	幼稚園教諭、保育士、小学校教諭の資格をもち、保育所、附属幼稚園、公立幼稚園等の現場で5年の実務経験 一時保護所、子育て支援団体等でのボランティア経験、これらの経験を活かし、より実践的な授業展開を図る		
時間外に必要な学修			
予習と復習をしっかりとこなす			
回	テ ー マ	内 容	
1～2	幼児の特質と保育の意義・目的	「保育」とは？ 保育の理念と概要 乳幼児期の発達の特質	
3～5	保育思想と児童観の変遷	古代、中世、近世から近代 諸外国の保育の思想と歴史 近代幼児教育思想の形成	
6～8	保育に関する法令・制度	19世紀～20世紀における施設や制度の確立 子ども家庭福祉と保育の位置づけ 子ども子育て支援制度	
9～10	我が国における幼稚園、保育所の成立と変遷	幼稚園・保育所（明治－大正－第二次大戦期） 幼稚園・保育所・その他の保育施設の保育目的と規定	
11～13	保育所保育指針における保育の基本	保育内容の変遷 保育の方法形態の分類と活動の実践的分類 保育方法の基本原理・目標・内容・遊びの意義・計画・評価 保護者との連携	
14～15	さまざまな保育と課題	諸外国の保育の現状 日本の保育の現状と課題	
教科書・教材		評価基準	評価率
保育原理 現場の視点で学ぶ保育原理 保育所保育指針		期末試験	100.0%
			その他

回	テ ー マ	内 容		
幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 自作プリント				

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
保育内容総論		保育・幼児教育学科／1年	2026／後期	講義
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位（16時間）		必須		いない, 藤原希
授 業 の 概 要				
保育所保育指針を中心に保育の基礎知識の習得や基本原理を理解する。				
授業終了時の到達目標				
教育・保育の基本がわかり、教育・保育を行う上での保育内容について考えられる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭、保育士、小学校教諭の資格をもち、保育所、子ども園、公立幼稚園の現場で14年の実務経験の中で一人一人の子どもに寄り添い、個性や得意を伸ばす保育を展開してきた経験を活かし、より実践的な授業展開を図る。		
時間外に必要な学修				
前回の授業内容をしっかりと復習しておく				
回	テ ー マ		内 容	
1	オリエンテーション 保育内容と実践について		授業内容を知る・自分の保育観や保育者観を意識する 保育内容をどう実践につなげるかを知る	
2	遊びと保育について		遊びをどう捉え、どう実践するかを知る	
3	生活と保育について		生活をどう捉え、どう実践するかを知る	
4	活動や行事について		活動・行事をどう捉え、どう実践するかを知る	
5	環境構成について		環境をどう捉え、どう構成するか知る	
6	計画・実践・評価について		年齢や発達によって保育内容が違ってくることを知る	
7	さまざまなニーズを支援する保育内容		現在の子ども環境や状況を知り、保育者としてすべきことを知る	
8	まとめ		授業内容の確認 授業内容理解の確認	
教科書・教材			評価基準	評価率
『保育所保育指針解説』 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 自作プリント			確認テスト 課題・レポート 演習	50.0% 25.0% 25.0%
				その他

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
乳児保育Ⅰ	保育・幼児教育学科／1年	2026／前期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位（30時間）	必須		川村 久恵
授 業 の 概 要			
子どもの成長発達、発達課題や保育内容および保育実践の方法の学習			
授業終了時の到達目標			
乳児保育についての知識や技能の基礎を習得し、保育者としての役割を自覚する			
実務経験有無	実務経験内容		
時間外に必要な学修			
予習と復習をおこなう			
回	テ ー マ	内 容	
1～ 2	乳児保育はなぜ必要か	乳児保育の歴史と現状の理解 乳児保育の現状 乳児院現状と課題	
3～ 4	保育所保育士指針における乳児保育	保育所保育指針の目的 保育所保育指針とは 保育所に求められる役割	
5～ 6	乳児保育のポイント	0歳、1歳、2歳児の発達過程 乳児の保育環境・安全管理・連絡帳の書き方	
7	ポルトマンの考えに学ぶ乳児期	生理的早産とは	
8	乳児のこころの発達	身近な人との絆	
9	乳児のことばの発達	ことばの発達の道筋	
10	乳児のからだと運動機能	からだの成長と運動能力 乳児の睡眠・離乳食の基礎知識 保育者同士の連携の大切さや連携のあり方	
11～ 12	保育所で過ごす一日の流れ	日課表（デイリープログラム） 複数担任制とは	
13	保護者との連携	保護者との協力関係、保育者の専門性と守秘義務 虐待の発見と対応・発達の遅れ トラブルの背景と保護者との連携	
14～ 15	実践	だっこ、おんぶの仕方・乳児の衣服の着せ方 おむつ替え・授乳・沐浴の仕方・遊びと絵本	
教科書・教材		評価基準	評価率
初めて学ぶ乳児保育 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 自作プリント		課題・レポート 期末試験	20.0% 80.0%
			その他

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
乳児保育Ⅱ	保育・幼児教育学科／1年	2026／後期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位（16時間）	必須		川村 久恵
授 業 の 概 要			
・ 0， 1， 2 歳児の発達のめやすの理解 ・ 保育のポイントと遊びの意味の理解			
授業終了時の到達目標			
・ 基本原理を踏まえ、指導計画の立案や実践の構築 ・ 保育者に求められる相談援助の技術や知識の習得			
実務経験有無	実務経験内容		
有	大学病院看護師16年 小児病棟、ICUにて手術後の患児の看護に従事 発達支援センターにて療育に 1 年間従事 保健センターにて1.6歳児、3歳児健康診断業務に 1 年間従事		
時間外に必要な学修			
予習と復習をおこなう			
回	テ ー マ	内 容	
1	保育環境の衛生管理 かみつき・ひっかきへの対応 演習前理論 排泄機能の発達と配慮 事	保育室内の衛生 トラブルの背景と保護者との連携 排泄器のとケア、観察事項	
2	だっこのしかた・おんぶのしかた （演習） ふれあい体操	だっこ、おんぶの仕方 ふれあい体操「一本橋こちょこちょ ちょちちょあわわ」	
3	乳児衣類の基礎知識 衣服の着せ方・脱がせ方（演習）	衣服の特徴と扱いを知る 仰向けの姿勢での着替え（演習）	
4	沐浴の仕方・清拭の仕方 おむつ替えと「おむつはずれ」	沐浴 おむつ替え（演習）	
5	授乳・離乳の仕方とその準備（理論）	授乳と食事 離乳食と食への関心	
6	授乳・離乳の仕方とその準備（演習）	調乳の方法 授乳の仕方 離乳食の介助	
7	保育所で過ごす 1 日の流れ（理論編）	年齢別デイリープログラム（日課表）	
8	連絡帳の書き方（理論編） まとめ	子どもの育ちを保護者と分かち合う	
教科書・教材		評価基準	評価率
保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 現場の視点で新要領・指針を考えあう こども、保育、人間（学研 汐見稔幸著） 自作プリント		確認テスト	100.0%
			その他

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態	
保育実習事前事後指導Ⅰ（保育所）		保育・幼児教育学科／1年	2026／後期	演習	
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員	
1単位（16時間）		必須		藤原 希	
授 業 の 概 要					
保育所実習の事前学習として、保育所保育指針を基に、保育所や保育、保育士について知る。 また、部分実習の準備として、指導案作成や模擬保育を通して、保育や保育士のあり方について知ること を目的とする。					
授業終了時の到達目標					
○保育所保育指針を基本的には理解し、指導案の作成方法が分かる。 ○模擬保育を通して、保育の実際や子どもの発達等について考え、ある程度イメージできるようになる。					
実務経験有無		実務経験内容			
有	幼稚園教諭、保育士、小学校教諭の資格をもち、保育所、附属幼稚園、公立幼稚園等の現場で5年の実務経験 一時保護所、子育て支援団体等でのボランティア経験、これらの経験を活かし、より実践的な授業展開を図る				
時間外に必要な学修					
実習に必要なことを事前学習として、自主的にこなす。					
回	テ ー マ		内 容		
1	実習の目的・実習カリキュラム・実習施設について		実習の目的・実習カリキュラム・実習施設について知る		
2	実習課題・指導案・日誌等について		実習課題・指導案・日誌等の書き方を知る		
3	事前訪問のアポイントメント・実習先オリエンテーションなどについて		事前訪問のアポイントメント・実習先オリエンテーションなどについて知る		
4	保育所保育指針の熟読・活用		保育所保育指針の再認識		
5	指導案について		指導案作成		
6～7	模擬保育		実践とその振り返り		
8	まとめ		実習前のまとめ		
教科書・教材			評価基準	評価率	その他
近大テキスト『保育実習事前指導』 『保育所保育指針』 『幼稚園教育要領』 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』			実習・実技評価 課題・レポート	20.0% 80.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
保育実習Ⅰ（保育所）		保育・幼児教育学科／1年	2026／後期	外部実習
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位（90時間）		必須		藤原 希
授 業 の 概 要				
実習を通し、次の内容を体験的に学ぶ				
①保育所における1日の流れ				
②子どもへの理解を深める				
③保育士の業務				
④保育所等の技術や記録方法について実践的に学ぶ				
⑤保育士を志すものとして自覚を高める				
授業終了時の到達目標				
・ 保育現場で保育を経験することにより、これまで学習してきた理論や技術が、保育の実践と具体的にどのようにつながるか理解することができる。				
・ 実践を通じて、保育の技術能力を向上させる。				
・ 自分なりの保育観や子ども観を深め確立する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭、保育士、小学校教諭の資格をもち、保育所、附属幼稚園、公立幼稚園等の現場で5年の実務経験 一時保護所、子育て支援団体等でのボランティア経験、これらの経験を活かし、より実践的な授業展開を図る		
時間外に必要な学修				
【準備学習】				
実習に行く前に実習の手引きとオリエンテーション資料等を読み直しておく。				
回	テ ー マ		内 容	
1～45	現場実習		1. 保育の内容、機能について理解する（保育所の1日の流れやプログラムの理解など） 2. 保育所における子どもの理解（年齢（月齢）ごとの子どもの発達とその特徴など） 3. 保育所における保育者の職務内容、役割などを理解する 4. 日誌や指導案の書き方を学ぶ 担当保育者の指導や助言に従い、積極的に保育実習に参加すること。	
教科書・教材			評価基準	評価率
			実習・実技評価	100.0%
				その他

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
教育方法論		保育・幼児教育学科／1年	2026／後期	講義
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位（30時間）		必須		大石 恵子
授 業 の 概 要				
1. 教育方法における基礎的理念 2. 幼児教育・保育の基本				
授業終了時の到達目標				
1. 幼児の教育方法の理念や歴史的背景を知る 2. 幼児教育の基本となる教育方法を理解する				
実務経験有無		実務経験内容		
有		平成元年～令和3年 徳島市立幼稚園教諭として勤務する		
時間外に必要な学修				
授業で行った箇所の復習をする				
回	テ ー マ		内 容	
1	教育方法の基礎理論		フレーベルの幼児教育方法 現代の教育方法に向けて	
2	日本の幼児教育方法の歴史		幼稚園の誕生と初期の幼児教育実践 幼児教育実践の展開	
3	環境を通して行う教育		環境構成の視点 保育者の関わり	
4	子どもの育ちと物的環境		学びと物事の捉え方 アフォーダンスとシグニファイア	
5	子どもの育ちと人的環境		子どものコミュニケーション能力 人的環境としての子どもと保育者	
6	子どもの育ちと社会的環境		地域社会と子どもの育ち 保護者と伝統行事	
7	領域とねらい及び内容		領域のねらいと内容の考え方	
8	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と教育課程		「生きる力」とカリキュラムマネジメント 幼稚園から小学校への接続	
9	「主体的・対話的で深い学び」と教育方法の関係		「アクティブラーニング」の視点 幼稚園教育と「主体的・対話的で深い学び」	
10	幼児理解に基づいた評価		「幼児理解に基づいた評価」の考え方 「幼児理解に基づいた評価」の方法	
11	幼児教育・保育における遊び		自発的な活動としての遊び 遊びと学び	
12	幼児教育・保育における遊び計画と評価		幼児教育・保育実践を支援するためのICT活用他	
13	幼児教育・保育における情報機器の活用		カリキュラムマネジメントの進め方 保育における評価	
14	幼児教育・保育のこれから		実践を支援するためのICT 情報活用能力を育む指導	
15	期末試験・振り返り		エージェンシーと非認知スキル 保育の質	

回	テ　　マ	内　　　　容		
		評価基準	評価率	その他
	教科書・教材			
	幼児教育・保育のための教育方法論（ミネルヴァ書房）	確認テスト	20.0%	
	幼稚園教育要領	期末試験	60.0%	
	自作プリント	課題・レポート	20.0%	

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
教育心理学	保育・幼児教育学科／1年	2026／後期	演習
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位（16時間）	必須		渡部 幸奈
授 業 の 概 要			
教育現場での心理学について			
授業終了時の到達目標			
教育現場での心理学を理解し、身に付ける			
実務経験有無	実務経験内容		
時間外に必要な学修			
次回の授業内容を踏まえて、テキストを用いて予習する。			
回	テ ー マ	内 容	
1～ 2	心理学とは	様々な場での心理学	
3	発達とは	原始反射	
4	愛着	愛着の形成	
5	人と人が関わる	対人関係における心理学	
6	言語機能の発達	言語の発達の仕組み	
7	認知発達	認知の発達の仕組み	
8	まとめ	まとめ	
教科書・教材		評価基準	評価率
保育に生かす教育心理学		課題・レポート	100.0%
			その他

作成者:

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
教育実習事前事後指導	保育・幼児教育学科／1年	2026／後期	演習
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位（16時間）	必須		藤原 希
授 業 の 概 要			
教育実習に向けて、教育実習の目的・意義を理解し、準備を行う。			
授業終了時の到達目標			
教育実習の意義・目的を理解し、準備ができる。 事後指導を通し、学んだことを確認し自身の力にできる。			
実務経験有無	実務経験内容		
時間外に必要な学修			
回	テ ー マ	内 容	
1	保育と教育の違い	保育所・幼稚園・認定こども園の違い	
2	記録の取り方	子どもの姿が反映された記録の取り方	
3	制作と活動について	年齢によって変わる遊びの内容の理解	
4	指導案作成	模擬指導案の作成	
5～6	模擬保育（活動遊び）	活動遊びを通しての学び、留意点の理解	
7	模擬保育（制作遊び）	制作遊びを通しての学び、留意点の理解	
8	まとめ	まとめ	
教科書・教材		評価基準	評価率
保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園保育・教育要領		課題・レポート	100.0%
			その他

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
子どもと身体表現		保育・幼児教育学科／1年	2026／後期	演習
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位（30時間）		必須		板東 一馬
授 業 の 概 要				
ダンスの指導方法と基本的なダンスの動き 保育に必要なリズムの取り方				
授業終了時の到達目標				
ダンスの基本動作を学び、課題曲のダンスを踊れるようになる。 ダンスをもとに周囲と円滑なコミュニケーションを図ることができるようになる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		保育士経験があり、現在ダンススタジオにて幼児から大人までのダンスレッスンを行っている。 その経験を生かし、学生に身体表現としてのダンスを指導する。		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ		内 容	
1～5	基本的なダンスの動き		・ ストレッチ ・ HipHopステップ	
6～10	リズムを用いたダンスの動き		・ リズムトレーニング ・ 応用的なダンスの動き	
11～15	応用ダンス		・ 振付 ・ 課題曲のダンス	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		ダンス 表現	50.0% 50.0%	

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
ピアノ	保育・幼児教育学科／1年	2026／通年	演習
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
4単位（60時間）	必須		山根 公美子
授 業 の 概 要			
読む、聴く、歌う、弾くことの基礎をバランス良く学び、指導技術の習得に結び付ける。			
授業終了時の到達目標			
両手奏での弾き歌い、合奏指導において音楽的な表現ができること。			
実務経験有無	実務経験内容		
有	・穴吹学園非常勤講師・ヤマハエレクトーン教室講師（レッスン・試験官） ・全日本エレクトーン指導者協会アドバイザリースタッフ		
時間外に必要な学修			
与えられた課題を自主的に練習する。			
回	テ ー マ	内 容	
1	音楽の基礎知識・基礎的音感（基礎編①）	楽譜の読み方と音名	
2	音楽の基礎知識・基礎的音感（基礎編②）	ソルフェージュ ・メロディー模唱⇒模奏	
3	音楽の基礎知識・基礎的音感（基礎編③）	・リズム模唱、リズム打ち	
4	音楽の基礎知識・基礎的音感（基礎編④）	・ハーモニー模唱⇒模奏	
5	楽曲演奏（基礎編①）	・アナリーゼ	
6	楽曲演奏（基礎編②）	演奏（バス音・ハーモニー・メロディ）	
7	楽曲演奏（基礎編③）	両手奏	
8	楽曲演奏（基礎編④）	弾き歌い・歌詞唱	
9	総合（基礎編）	初見演奏・伴奏付け・メロディ聴奏・ハーモニー聴奏	
10	合奏・合唱（基礎編）	指導法	
11	音楽の基礎知識・基礎的音感（中級編①）	楽譜の読み方と音名	
12	音楽の基礎知識・基礎的音感（中級編②）	ソルフェージュ ・メロディー模唱⇒模奏	
13	音楽の基礎知識・基礎的音感（中級編③）	・リズム模唱、リズム打ち	
14	音楽の基礎知識・基礎的音感（中級編④）	・ハーモニー模唱⇒模奏	
15	楽曲演奏（中級編①）	・アナリーゼ	

回	テ ー マ	内 容		
16	楽曲演奏（中級編②）	演奏（バス音・ハーモニー・メロディ）		
17	楽曲演奏（中級編③）	両手奏		
18	楽曲演奏（中級編④）	弾き歌い・歌詞唱		
19	総合（中級編）	初見演奏・伴奏付け・メロディ聴奏・ハーモニー聴奏		
20	合奏・合唱（中級編）	指導法		
21	音楽の基礎知識・基礎的音感（応用編①）	楽譜の読み方と音名		
22	音楽の基礎知識・基礎的音感（応用編②）	ソルフェージュ ・メロディー模唱⇒模奏		
23	音楽の基礎知識・基礎的音感（応用編③）	・リズム模唱、リズム打ち		
24	音楽の基礎知識・基礎的音感（応用編④）	・ハーモニー模唱⇒模奏		
25	楽曲演奏（応用編①）	・アナリーゼ		
26	楽曲演奏（応用編②）	演奏（バス音・ハーモニー・メロディ）		
27	楽曲演奏（応用編③）	両手奏		
28	楽曲演奏（応用編④）	弾き歌い・歌詞唱		
29	総合（応用編）	初見演奏・伴奏付け・メロディ聴奏・ハーモニー聴奏		
30	合奏・合唱（応用編）	指導法		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
音楽 声楽教本（近畿大学九州短期大学テキスト）		期末試験	25.0%	
音楽 ピアノ教本（近畿大学九州短期大学テキスト）		確認テスト	25.0%	
やさしく弾けるピアノ伴奏 保育のうた1		課題・レポート	25.0%	
2		実習・実技評価	25.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
総合演習Ⅰ		保育・幼児教育学科／1年	2026／通年	演習
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
6単位（60時間）		必須		藤原 希
授 業 の 概 要				
保育の現場で求められる実践的な知識・技術を身につける				
授業終了時の到達目標				
保育において必要な基本的知識や技術等を身につける。 保育現場で使用する素材、教材について基本的な知識を身につけ実際の保育現場を想定して作成、使用することができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		保育所・幼稚園での勤務経験を活かし、実際の保育現場を想定してより実践的な授業の展開を図る。		
時間外に必要な学修				
保育に必要なことを考えて、事前準備をおこなう。				
回	テ ー マ		内 容	
1～ 2	1. オリエンテーション 2. 自己紹介ツールの作成		1. 授業内容と目的の説明 2. 保育のツールを使って自己紹介	
3	3. 雑巾の縫製		1. 自己紹介の発表 2. 雑巾の作成	
4～ 7	4. お誕生表の作成		1. グループでお誕生表を作成する 2. クラスで発表	
8～ 9	5. おもちゃ作り		0,1歳児のおもちゃを作る	
10～ 11	5. おもちゃ作り		2,3歳児のおもちゃを作る	
12～ 13	パペットづくり		保育現場で利用できるパペットを作る	
14～ 16	5. おもちゃ作り		4,5歳児のおもちゃを作る	
17～ 23	名札製作		保育実習に向けて名札を製作する。	
24～ 26	自己紹介ツールの製作		実習に使用する自己紹介ツールを製作する。	
27～ 28	うたのほんの製作		実習に使用するうたのほんを製作する。	
29～ 30	お土産の製作		実習に使用するお土産を製作する。	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		課題・レポート 実習・実技評価	50.0% 50.0%	

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
就職実務	保育・幼児教育学科／1年	2026／後期	演習
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位（30時間）	必須		藤原 希
授 業 の 概 要			
就職活動についての支援 就職活動に必要なスキルの再認識や再確認、最新の情報の提供を行う			
授業終了時の到達目標			
1. 面接に対する恐怖感をなくす 2. 就職試験で本来の力を発揮できるように継続してスキルアップを目指す			
実務経験有無	実務経験内容		
時間外に必要な学修			
【準備学習】 次回の授業内容を踏まえて、「就職の手引き」等を見直す			
回	テ ー マ	内 容	
1	オリエンテーション 印象アップ講座	資料配布、担任動機づけ 印象アップ講座	
2	就職CC動機づけ 自己紹介、自己PR発表	就職CC動機づけ 自己紹介、自己PR発表	
3	挨拶練習	挨拶練習	
4	50問50答①	50問50答練習	
5	挨拶練習	挨拶練習	
6	電話応対、会社訪問、面接ロールプレイ ①	電話応対、会社訪問、面接練習	
7	50問50答②	50問50答発表	
8	面接練習①	面接練習①	
9	挨拶練習	挨拶練習	
10	電話応対、会社訪問、面接ロールプレイ ②	電話応対、会社訪問、面接練習	
11	グループワーク	NASAゲーム	
12	グループワーク	時事問題	
13	挨拶練習	挨拶練習	
14	面接練習②	面接練習②	
15	グループディスカッション	グループディスカッション	

回	テ　　マ	内　　　　容		
		評価基準	評価率	その他
	教科書・教材			
	「就職の手引き」	履歴書提出 集団面接参加	60.0% 40.0%	